

エントリー名：さつま町立柏原小学校 校長 石川 雅仁

活動名： 進め！子供と教師の個別最適な学び ～教師の〇〇観を変える学校改革への挑戦～

解決すべき課題：

- ・ 積極的な変化を望まない職場の雰囲気改善（仕事観の転換）
 - 「前年度踏襲」をやめ、新しいアイディを生み出し実行することに喜びを見いだす職場へ
 - 業務削減によるチーム対応減を見直し、個人主義傾向から協調主義の雰囲気へ
- ・ 自発的に学ぼうとする研修意欲の醸成（教育観、指導観、教師観、研修観の転換）
 - 最新の教育動向に対する関心を高め、現行学習指導要領の理念や価値観を学ぶ姿勢へ

目標・方針：

□ 教師の〇〇観のアップグレード

例：（教育観）「正解至上主義」から「最適解への絶え間ない試行錯誤」へ
（指導観）「教師主導」から「学習者（子供）主体」へ
（教師観）「教える教師」から「子供に任せる教師、信じる教師」へ
（研修観）「日々の授業改善のための研修」、「全員が当事者の研修」へ
（仕事観）「業務『量』の削減だけでなく『質』の向上」（やりがい醸成）へ

□ 教師主体の職員研修を軸とした学校改革

- ・ 学校教育目標と研修テーマの一元化
- ・ テーマ研修を軸にした組織的継続的、そして計画的な学校改革

活動内容：

① 全職員の研修に対する目的意識を揃える！

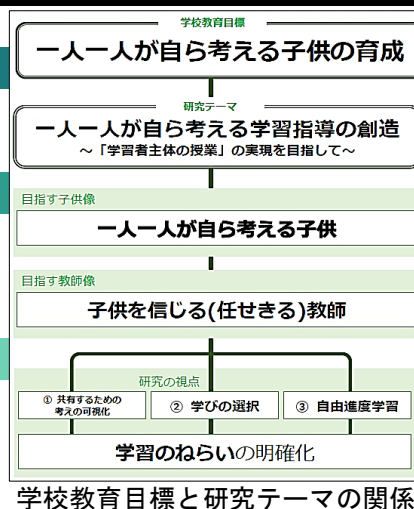
- ・ 自分事として考えるワークショップの実施
- ・ 学校教育目標の再設定と研究テーマの設定

② テーマ研修を核とした日々の授業改善！

- ・ 職員研修のコンセプト設定
- ・ 授業デザイン、授業研究のシステム見直し
- ・ 校長という立場からのアプローチ

③ 職員の個別最適な学びへ！

- ・ 年間個人研修テーマの設定、研究成果発表会の開催
- ・ 研究先進校への積極的な派遣
- ・ 選択研修、ディスカッション型式研修（かし cafe）の実施



取組の過程：

① 全職員の研修に対する目的意識を揃える！

- ・ **自分事として考えるワークショップの実施**
職員一人一人のそれぞれの思いや考えのベクトルを揃え、チームとして機能化されるよう、学校教育目標を再設定するワークショップを昨年度実施した。その結果、職員全員にとって自分事となる学校教育目標「一人一人が自ら考える子供の育成」が設定され、一人一人が責任をもって日々教育活動を推進している。
- ・ **学校教育目標の再設定と研究テーマの設定**
学校教育目標の策定により全職員が目指す方向性を揃えたことで、それを実現するための研修という意識の下、自ずと研究テーマが決定した。



ワークショップの様子

② テーマ研修を核とした日々の授業改善！

・ 職員研修のコンセプト設定

「一部の職員のための研修ではなく、全員参加の職員一人一人のための研修」「研究公開のための研修ではなく、日々の授業改善のための研修」をコンセプトとし、研修観の転換を図った。

・ 授業デザイン、授業研究のシステム見直し

上記のコンセプトの下、研究授業を「全員で研究授業をして、授業を見て、語る研修」とし、全教諭等が年2～3回の研究授業を実施している。その際、授業者には指導案作成を求めず、授業づくりで工夫したポイントを選択可能なA4判1枚を用いて参観者に伝える。また、研究授業後の授業研究会は実施せず、参観者が自分の授業に取り入れたいと思ったことを伝える「イイねシート」を授業者に渡すようにしている。

・ 校長という立場からのアプローチ

校長自ら研究授業をすることで、私たちが目指している授業は具体的にどのような授業なのかということをイメージしやすくなることをねらっている。

また、全体に広げたい事例等は、すぐにteamsや校長通信、「今月のチェックポイント」等を活用して情報発信している。さらに、一人一人の研究授業後には、A3判の「授業振り返り啓発シート」を作成し、授業者に渡したり、校内に掲示したり、本校のWebサイトで発信したりしている。



全員で見る研究授業



校長による研究授業



授業振り返り啓発シート

③ 職員の個別最適な学びへ！

・ 年間個人研修テーマの設定、研究成果発表会の開催

本校では年度当初に職員一人一人が年間の研修テーマを設定し、年間を通じて各種研修会に参加したり、研究授業を行ったりしている。年度終盤の1月には、鹿児島大学の高谷先生にコーディネーターになっていただき、他の学校の先生や大学生もお呼びし、年間を振り返った個人研究発表会を実施している。

・ 選択研修、「かし cafe」の実施

本校では全職員が同じ時間に同じ研修を行う従来型の職員研修の他に、職員一人一人の意思を尊重した選択研修、ディスカッション主体の職員研修（通称「かし cafe」）を他校にも呼び掛けて実施している。先生方の困り感を解消するために、様々な専門的知識のある講師を招聘したり、座談会的にみんなで語り合ったりしている。また、県外の研究先進校への視察の還元報告会も積極的にしている。



研究成果発表会の様子



「かし cafe」の様子

活動の成果：

○ 意識調査から

- ・ 本校の職員研修の在り方について効果を感じ、職員研修をポジティブに捉えて取り組んでいる職員の増加。

○ 校長の立場から感じるこ

- ・ 教師自ら自己肯定感をもって、さまざまな校務に当たる職員の増加
- ・ 研究授業のべ回数の大幅な増加、授業の質の改善
- ・ 「〇〇観が変わった！」と感じる職員の増加
- ・ 生き生きと自ら学ぶ子供へと転化（学校教育目標の実現）

